

全校の皆さん、明けましておめでとうございます。全国的に大変な年明けとなりましたが、元気に登校してくるみんなの姿を見て、なんだかほっとしました。そして、嬉しい気持ちでした。

一月一日、朝のニュースで初日の出を観ました。初日の出は、画面越しにまぶしく輝きを届けてきました。うまくは言えませんが、私たちの住む世界はこんなに美しいんだと感じながら、私は気分よく新年を迎えました。

ところが同じ日、夕方のニュースを観ながら、私は不安と緊張、悲しみといたたまれなさでいっぱいになりました。分かりますよね。能登半島地震の発生です。自然災害の前で人は無力です。何かできないかと思いながら、何もできない自分を知ることには、いつも痛みが伴います。

そんな中、1月4日でした、私の息子がSNS上にあるニュースを見つけました。被災地で子どもが生まれたというニュースでした。過酷な環境のもとで生まれたその命に対し、日本だけでなく世界中からコメントが寄せられていました。その一部を紹介します。「正月早々、悲しい話題が多いですが、新しい命の誕生、心がほっと和みます。おめでとうございます。健康にすくすくと育ってくれることを願います」「日本の宝、私たち日本人の宝です。強く優しく逞しく健やかなご成長を。そしてご家族の皆様の一日も早い安寧を心より祈念いたします」「おめでとうございます。そして、きっと今この素敵なお知らせを知れた皆さんは、ありがとう!! と思っていると思います」「日本人はとても美しく優しいことがわかりました。神様が彼らを守ってくれますように」

これらのコメントを読み、あらためて思いました。「やはり、私たちの住む世界はこんなにも美しい」と。未来は正確に予測できません。楽しいこともあれば、つらいこともうまくいかないこともあるはずです。でも、遠く離れた場所に灯った小さな命を我がこととして喜べる気持ち、人を思いやりその幸せを願う気持ちさえあれば、何があろうと、きっと私たちには“美しい世界”が広がり続けます。自分の前に広がるのがどんな世界か、自分自身の心が決める気がするのです。

令和6年も、君たちが多くの幸せに恵まれることを願います。思いやりに満たされることを願います。他の人の喜びや希望となれることを願います。優しさや明るさ、誠実さや素直さを育て続けられることを願います。最後に、被災者の皆様の救済と被災地の復興がいち早く遂げられるよう、同じ日本人として強く願います。そして、私もまた、自分の無力さに下を向くのではなく、できる範囲でいいので、私にできることをしたいと思い直しています。

今の私の思いをそのまま話しました。聞いてくれてありがとう。3学期もすばらしい時間を、そして、明るく美しい世界をみんなで作っていきましょう！以上で、話を終わります。